

LD 児 の 学 習 指 導

1 はじめに

通常の学級の中に、LD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒が多数在籍していることがわかってきた。宇治市ことばの教室では、宇治市の教育相談窓口として、その周辺児童生徒に関わってきた。また、言語発達遅滞として、学びにくさやコミュニケーションに課題のある児童を個別に通級指導したり、学級担任や保護者の相談を行い、支援している。

2 対象児童のアセスメント

小学校2年生 ことばの教室外来相談、校内委員会、専門家チームで検討。
PDD(+), ADHD(+), LD(+), 配慮すべき心理要因(+)

<アセスメントのために収集された情報>

保護者相談による情報(生育歴、保育歴、教育歴等)及び各年齢でのエピソード、就学後の学級での様子(学習面、行動面、その他)発達検査、眼球運動
ex:音読のたどたどしさは、眼球運動のぎこちなさに関係があるのではないか。また、気持ちが走るため、文字を先さきと見て引っ張られてしまい、適切に読めないのではないか。

相手の気持ち、場面を読み取れない傾向がある。

3 指導の実際

(1) 通常の学級での様子と取組

全般的には、全体指導の中で育てるスタンス。

本児が困ったり、課題がある場面で、その都度支援方法を考えて行う。

本児だけでなく、どの子にもわかりやすい授業作りを心がける。

周囲の子を育て、互いに助け合い、学び合う大切さを教える。

集団に不利益になる事をしたとき、危険なことをしたときなどはきつく叱る。寝てしまうときは保健室に行かせる。

短時間勝負の学習のときは、意図をしっかり伝える。

(2) 通級指導教室(ことばの教室)での指導

<漢字カルタ> グループ指導。勝敗に関わらず遊べる力をつける。

漢字の成り立ちを聞いて、形を想起できる力をつける。

<音読> 個別指導。自分の特徴を知り、苦手さをクリアする方法で学ぶ。

<言語訓練絵カード> やり取りの中で待つこと、人に合わせることを学ぶ。

<ドミノ> 数量を正確に速く数える。新しいゲームに挑戦し、興味を広げ、自信をつける。

<点結び> 数字を手がかりに正しく形を写し取る。 など

4 まとめ

アセスメントから、本児の苦手さをしっかり把握するとともに、できないこと、悪いことよりも、「できること」「指導に生かせる良い点」を見つけて関わるのが大切である。

指導に生かした良い点は引き継ぐが、それぞれの担任の特徴、個性、やりやすい方法で迫っていくことがコツといえる。

本児の特徴は大きく変わらないが、その年の出会い、成長によって、主訴は変化していつている。その時々の子どもの様子に合わせて支援する。